

「冬眠映像祭」初開催！

日本気鋭のアニメーション作家たちがマルチメディア映像体験を展開

冬眠映像祭 Vol.1

かいふくのいずみ

— インディペンデント・アニメーション、最前線！ —

2020年1月25日(土) - 4月5日(日) 十和田市現代美術館



デザイン：最後の手段
イラスト：ひらのりょう、ぬQ、最後の手段

十和田の街が雪に包まれる冬、ゆっくりと映像を楽しんでいただく企画「冬眠映像祭 Vol.1 かいふくのいずみ インディペンデント・アニメーション最前線！」を十和田市現代美術館で2020年1月25日(土) - 4月5日(日)まで開催します。ゲスト・キュレーターとしてアニメーション研究の第一人者、土居伸彰氏をお招きし、インディペンデント・アニメーション作家たちの試みにフォーカスを当てます。

- ・日本の今を代表するインディペンデント・アニメーション作家たちが一堂に会する
- ・3組のコラボレーションにより展示空間が「かいふくのいずみ」に変身
- ・十和田でのリサーチにインスパイアされた共同制作の新作を発表

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 土居伸彰氏（ゲスト・キュレーター）より 】

「冬眠映像祭 vol.1 かいふくのいずみ インディペンデント・アニメーション最前線！」では、アニメーションを中心にマルチジャンルで活躍する日本のアニメーション作家3組——ひらのりょう、ぬ Q、最後の手段——の上映・展示を行います。

同年代のこの3組の作家たちは、わたしたちの生活に根ざした土着のモチーフや、レトロさを感じさせる様々な意匠を用いながら、そのなかに、現代的なスケール観を超えたなにかを宿らせ、この日常的な知覚のなかに、未来や妖怪（もしくは UFO）、幽霊や太古といった錯綜する時空間をねじ込み、体験させ、転覆させ、しかし最終的に顔をほころばせ、身体を喜ばせるという、共通の作風を持っています。

2015年に渋谷で開催された「パワースポット」展以来となるこの3組によるグループ展では、十和田での事前リサーチによってこの地の靈性にインスピレーションを受け、共同で展示空間を作り上げます。本展示会はグループ展ゆえ、複数のアーティストのパワーが融合することで、新たな価値観が生まれていくことになるでしょう。思えば十和田市の歴史は複数の自治体（権力＝パワー）の合併によってできあがり、十和田湖およびその周辺の自然も噴火をはじめとする複数の自然現象（のパワー）の合せ技により形成されたものです。会場となる美術館という場所もまた、日常とは違った価値観・パワーのあり方を呼び寄せる場であり、そのパワーを浴びるために世界中から人々が訪れ、それがまたパワーをもたらします。

複数のパワーの融合がもたらしうるポジティブな効果・新たな価値観の誕生が、この展示において達成されるべきものとなります。それを達成すべくアニメーションの上映のみならず、絵画や彫刻・オブジェなど、多彩なものを組み合わせることで、種々のパワーを受け取ることでできる素敵な空間を作り上げることを目指します。3組は合同で、この展示会のための「モニュメント」となる新作を作る予定にもなっています。全体として、「土着」と「宇宙」と「精神世界」をつなぎあわせた温泉のようなホッコリ感のある空間を生み出すことで、来場者のパワーを「回復する泉」——そこに十和田湖の存在が大きく影響しているのは間違いありません——となることを目指します。

動植物が次の春が来るまで眠りにつく時期、本展示は、3組のパワーの合体により、新たな世界を作る力を十和田に蓄えます。「いずみ」のようなこの空間に浸ることで、新たな生に向け、「かいふく」をしにきてください。

【 展示の内容とみどころ 】

1. 日本の今を代表するインディペンデント・アニメーション作家たちが一堂に会する

ひらのりょうは、マンガ『FANTASTIC WORLD』をはじめ、近年では俳優としての活動を開始。チャットモンチーや水曜日のカンパネラらのミュージックビデオを手掛けるぬ Q は独自の世界観によるマンガやイラストレーションも人気。最後の手段はマンガとアニメの融合や数々のミュージックビデオ、さらには立体作品により太古と今をつなげる深遠な世界を展開。それぞれがマルチメディアな活動をする注目のアニメーション作家たちです。

2. 3組のコラボレーションにより展示空間が「かいふくのいずみ」に変身

「冬眠映像祭」は単なる映像の上映企画ではありません。参加アーティスト3組が合同で世界観を設定、アニメーションもそれ以外も、新作や過去作を集めることで、展示空間全体をひとつのコンセプトに基づいた世界へと変容させます。

今回は、十和田市でのリサーチを経て、展示空間が「かいふくのいずみ」をコンセプトとした空間に変身します。

3. 十和田でのリサーチにインスパイアされた共同制作の新作を発表

今年8月、3組のアーティストは十和田を訪問。十和田湖や奥入瀬溪流、さらには十和田市をとび出してピラミッドをはじめとする様々なパワースポットをめぐる。そこで受け取った靈性をインスピレーションとして、3組が合同で新作映像インスタレーションを制作、冬眠映像祭にてお披露目をします。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 出展作家メッセージ&プロフィール 】

ひらのりょう

最も尊敬し信頼する作家、ぬQ、最後の手段、と共に『かいふくのいずみ』なるものをつくることとなりました。世にも美しい混沌がこんこんと湧きあがることでしょう！！ ようこそ かいふくのいずみへ



photo by Takuya Shima

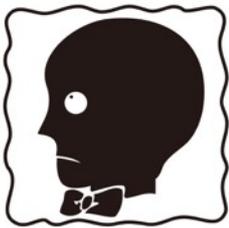
プロフィール

短編アニメーション作家/漫画家。1988年埼玉県春日部市生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科卒業。FOGHORN所属。文化人類学やフォークロアからサブカルチャーまで、自らの貪欲な触覚の導くままにモチーフを定め作品化を続ける。MV「Hietsuki-Bushi」(with Omodaka)で文化庁メディア芸術祭エンタテインメント部門新人賞。短編アニメーション「ホリデイ」で学生CGコンテスト・グランプリ。デンマーク、オタワ、サンフランシスコ、アヌシーなど映画祭参加多数。グランギニョル未来、口口、山本卓々作品他、演劇関連のビジュアルも多数務める。

Web : <http://ryohirano.com/>

ぬQ

「この泉には伝説がある。誰もが眠る真夜中に、静まり返った水面が鏡面となり歩ける時がある。すると全てを見通す精霊に会える。精霊の千手に握られたみんなの願いや希望から、一番大切なものを選ぶか。大切な気持ちと秘密が一斉に輝き、真っ暗な泉に反射している…」誰もが本当は持っている、普段は眠っている願いが目覚めるような作品を作りたいと思っています。



プロフィール

アニメーション作家。修了制作のアニメーション作品“ニュー〜東京音頭”が第18回学生CGコンテスト最優秀賞を受賞、第16回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品に選出されるなど、国内外で多数上映される。

pixiv Zingaro や TETOKA 等のギャラリーで個展を開催する他、CM、MV、イラスト等クライアントワークも数多く手掛けている。

Web : <http://nuq.o.oo7.jp>

最後の手段

アニメーションにおける魔術的側面を、スクリーンという平面から展示空間にまで広げます。そこに満ち満ちる作家3組の化学反応を起こしたマジカルエキスのフレーバーを、心ゆくまでお楽しみください。



プロフィール

有坂亜由夢、おいたまい、コハタレンの3人からなる、人々の太古の記憶を呼び覚ますためのビデオチーム。2010年に結成。手描きのアニメーションと人間や道具小道具を使ったコマ撮りアニメーションなどを融合させ、有機的に動かす映像作品を創作。

Web : <https://www.saigono.info>

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 ゲスト・キュレーター 】



土居伸彰（どい・のぶあき）

アニメーション研究・評論、各種プロデュース。ニューディアー代表。新千歳空港国際アニメーション映画祭フェスティバル・ディレクター。ユーリー・ノルシュテイン作品を起点にアニメーションの理論的・歴史的研究と執筆をすることがたわら、海外アニメーション作品の配給や各種イベントの企画・運営を行う。ファンタジー国際アニメーション映画祭の日本特集メインキュレーターほか、海外映画祭での仕事が多く。キュレーターの仕事としては、「イン・ア・ゲームス ケープ ヴィデオゲームの風景、リアリティ、物語、自我」（NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]、谷口暁彦との共同キュレーション）がある。著書に『個人的なハーモニー ノルシュテインと現代アニメーション論』『21世紀のアニメーションがわかる本』（ともにフィルムアート社）など。

【 関連イベント 】

■ 上映会&オープニングトーク

本展覧会出展作品の上映会と、作家ひらのりょう、ぬQ、最後の手段、ゲスト・キュレーター土居伸彰が、創作活動や作品について語るオープニングトークを開催します。

日 時：1月25日（土）14：00 - 15：30

会 場：十和田市現代美術館 市民活動スペース

料 金：無料 ※要企画展チケット

登壇者：ひらのりょう、ぬQ、最後の手段（以上、出展作家）、土居伸彰（本展ゲスト・キュレーター）

※上記の他にも、会期中にイベントを予定しています。詳細は後日発表します。

※イベントの日時、内容は変更される場合があります。最新情報は随時 Web サイトでご確認ください。

【 開催概要 】

展覧会名： 「冬眠映像祭 vol.1 かいふくのいずみ インディペンデント・アニメーション、最前線！」

会 期： 2020年1月25日（土） - 4月5日（日）

開館時間： 9:00 - 17:00（入場は閉館の30分前まで）

休 館 日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）

会 場： 十和田市現代美術館

観 覧 料： 企画展+常設展セット券 1200円。企画展の個別料金は一般 800円。

団体（20名以上）100円引き。高校生以下無料。

主 催： 十和田市現代美術館

後 援： 東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、十和田市教育委員会

ゲスト・キュレーター：土居伸彰（ニューディアー/新千歳空港国際アニメーション映画祭）



十和田市現代美術館

2008年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティスト33組の作品38点を常設展示。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、こどもからおとなまで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができる。

所在地：青森県十和田市西二番町10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

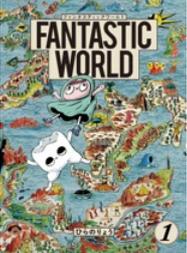
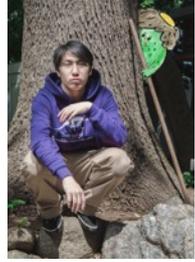
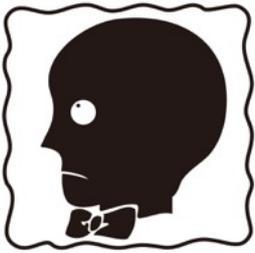
【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

FAX : 0176-20-1138 / E-mail : press@towadaartcenter.com

TEL : 0176-20-1127 / 住所 : 034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行

<input type="checkbox"/> 図版 1 (メインビジュアル)  デザイン：最後の手段 イラスト：ひらのりよう、ぬQ、最後の手段	<input type="checkbox"/> 図版 2  ひらのりよう《パラダイス》 ©ひらのりよう/FOGHORN (参考画像)	<input type="checkbox"/> 図版 3  ひらのりよう 《FANTASTIC WORLD》 ©ひらのりよう/リイド社/ FOGHORN (参考画像)	<input type="checkbox"/> 図版 4  ぬQ《サイシュ〜フ》 (参考画像)
<input type="checkbox"/> 図版 5  ぬQ《ニュー〜東京音頭》 (参考画像)	<input type="checkbox"/> 図版 6  最後の手段 《EVISBEATS "NEW YOKU feat. CHANMIKA"》(参考画像)	<input type="checkbox"/> 図版 7  最後の手段《えんちゃんち》 (参考画像)	<input type="checkbox"/> 図版 8 (ポートレート)  ひらのりよう photo by Takuya Shima
<input type="checkbox"/> 図版 9 (ポートレート)  ぬQ	<input type="checkbox"/> 図版 10 (ポートレート)  最後の手段	<input type="checkbox"/> 図版 11 (ポートレート)  土居伸彰	

媒体名 _____

媒体ジャンル 新聞/雑誌/美術誌/テレビ/WEB/その他 (_____)

御社名 _____

御担当者名 _____

所在地 〒 _____

電話 _____

メールアドレス _____

【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com